

令和7年度 次世代スクールプロジェクト(連携授業)実施要項

1 目的

男女共同参画を推進していくためには、年少期における啓発が重要であることから県内の小・中・高等学校・特別支援学校、専門学校、大学等と連携し、互いの性と人権を尊重することの大切さや自分らしさを發揮する大切さを考えるための連携授業を、一部外部講師を交えて実施することにより、男女共同参画形成の促進を図る。

2 主催

福島県(受託事業者:福島県男女共生センター)

3 内容

(1)期間:令和7年4月～令和8年3月

(2)会場:実施当該校

(3)内容及び講師

ア 対象校

県内小・中・高等学校・義務教育学校・特別支援学校、専門学校、短期大学、大学、教育関係諸団体など

イ 連携授業のテーマ ※次のテーマを参考とし、学校・団体と協議の上、決定する。

・男女共同参画について 　・性別にとらわれない職業選択 　・デートDV

・ハラスメント 　・多様な性 　・ライフデザイン(外部講師連携。専門学校・大学を想定) 　など

ウ 講師

福島県男女共生センター職員(県派遣教員)、外部講師

4 費用 無料

5 申込 Google フォームにて当センターへ申し込む。

Google フォーム URL:<https://forms.gle/uXU3xESz4WQRndgm6>

(担当:事業課 津田 0243-23-8304)

次世代スクールプロジェクト申込



QRコード(登録用)

6 その他 〈実施校一覧(実施順)〉

令和6年度

小学校:いわき市立豊間小学校、福島市立瀬上小学校(教職員)、福島市立野田小学校、いわき市立小名浜東小学校(教職員)

中学校:川俣町立川俣中学校、本宮市立白沢中学校、いわき市立小名浜第二中学校、本宮市立第二中学校、昭和村立昭和中学校(教職員)、いわき市立磐崎中学校、小野町立小野中学校、福島市立福島第二中学校

高等学校:田村高校、平工業高等学校、聖光学院高等学校、いわき光洋高等学校、安達高等学校、会津工業高等学校、白河実業高等学校、二本松実業高等学校、福島工業高等学校

教育関係諸団体:福島県教育センター(初任者研修)、福島市学校給食研究会栄養士部会、福島県高等学校教頭会県南支部、会津若松人権擁護委員協議会、福島県学校保健会養護教諭部会、福島県人材派遣センター

次世代スクールプロジェクトについて（年間25校程度）

福島県男女共生センター

「これからクラスの大事なことを決める会議の代表を6人選ぶとします。このクラスの半分以上は女子ですが、代表は男子5人、女子1人とします。このメンバー構成で女子の意見や思いはクラスの決定にしっかり反映されるでしょうか？どう思いますか？」「されないし、それは嫌です！」「日本の人口も半分以上が女性ですが、国会議員を始めとする議会議員のほとんどが男性、つまりさつきのクラスの例と同じような状態になっていると言えます。これで国や市の大事な決定に女性の意見が十分に活かされるでしょうか？」「（「いいえ」と首を横に振る児童たち）」……（とある小学校で行った出前授業の一場面）

福島県男女共生センターでは職員（県派遣教員）による出前授業を実施しています。県内の多くの学校で、男女共同参画の現状やLGBTQなどの多様な性、デートDV防止やハラスメントの防止、性別にとらわれない職業選択についてなど様々なテーマによる授業を行っています。この授業が児童・生徒、学生が人権や男女共同参画について考え、自分らしく生きることの大切さに気づくきっかけになるかもしれません。費用は無料です。各学校からのご依頼・ご相談をお待ちしています。詳しくはセンターのホームページをご覧ください。

（※スケジュールの都合上、お受けできない場合もございます。ご了承ください。）

参加者の声

「僕はこの授業をやって、お母さんや家族と協力して家庭の仕事をやりたくなりました。」
(小学5年生)

「私は自分の性が分からなかったのですが、それでもいいんだと気づかせてもらえた今回の講座を絶対忘れません。」
(中学1年生)

「なんで女性が活躍できないのか理由が良くわかりました。私たちが活躍していくためにも、若い世代から少しずつ改変していくべきなと思いました。そして『誰もが生きやすく、ひとりひとりが幸せな社会』で暮らせるようにしていきたいです。」
(高校1年生)

「今まで自分の中で勝手にこれが普通とか、これは普通じゃないとか決めてしまっていたのをものすごく感じました。もしかしたら自分の普通を相手に押し付けていたかもしれません。これからは自分だけの視点で考えるのではなく、相手の視野まで見て行きたいと思いました。」
(高校3年生)

「私は今のところ結婚も出産も願望はないのですが、そんな自分でも支える立場になって、少しでも多くの人が自分らしく働ける環境でのびのびと暮らせるようになって欲しい、そういう世の中にいていきたいと思いました。」
(専門学校生)

「ライフデザインの講義は今まで多くありましたが、それらはほとんど『仕事』について考えるものでした。今回のセミナーでは、ワークだけでなくライフイベントについても考えることができたため、非常に有意義な時間となりました。」
(大学生)